

2025 年 10 月 27 日
国立大学法人東京藝術大学

「東京ドームシティ アートプロジェクト」
2025 年度第二弾、第三弾として
卒業生の村山悟郎、副島しのぶの映像作品を
100m 超のロングビジョンにて放映

国立大学法人東京藝術大学（学長：日比野克彦、以下「本学」）は、2022 年より株式会社東京ドーム（所在地：東京都文京区、代表取締役社長 COO：長岡 勤）および一般社団法人東京藝術大学芸術創造機構（所在地：東京都台東区、代表理事：伊藤達矢）と共同して「東京ドームシティ アートプロジェクト」を実施しています。

本年度の展開として、2025 年 5 月より本プロジェクトとしては初となるデジタルアート作品を制作。第一弾として本学の卒業生であるユウキユキの作品を 2025 年 5 月 30 日から 10 月 16 日まで放映しました。

第二弾となる村山悟郎の作品は 2025 年 10 月から、第三弾となる副島しのぶの作品は 2026 年 3 月からの放映が決定しました。100m を超える大迫力のロングビジョンで放映されるデジタルアート作品を、ぜひお楽しみください。



<開催概要>

- ☐期間 2025 年 10 月 17 日（金）～2026 年 6 月 30 日（火） ※作品時間...30 秒
7:30～22:59 のあいだ、毎時 00 分と 30 分開始予定。
※11 月 17 日（月）～2026 年 3 月 1 日（日）の間は、一部、上映時間に変更がございます。詳しくは下図をご覧ください。

10 月 17 日（金）～11 月 16 日（日）	7:30～22:59	毎時 00 分、30 分
11 月 17 日（月）～2026 年 3 月 1 日（日）	7:30～16:59	毎時 00 分、30 分
	17:00～22:59	毎時 14 分 30 秒、44 分 30 秒

- ☐場所 東京ドームシティ（文京区後楽 1 丁目 3-61）

セントラルパーク「パークリボンビジョン」

- ☐入場 無料
☐ウェブサイト <https://www.tokyo-dome.co.jp/event/city/events/artproject.html>
※放映予定は変更となる場合がございます。

<放映作品について>

■第二弾作品

- ☐期間：2025 年 10 月 17 日（金）～2026 年 3 月 1 日（日）
☐アーティスト：村山悟郎
☐作品タイトル：「生成するドロ잉グーリボン状の系列」

☐アーティストコメント

あてもなく東京の街を散歩している場面を想い浮かべてみる。曲がり角の向こうに、遮られた先の情景が予想できる。私たちは驚くべきスムーズさで、知らない路を進むことができている。だが、予想外のこともおきる。誰かと出くわしたり、素敵なお店を見つけられるかもしれない。しかしだ。考えもしないことも、またある。あらかじめ排除している蓋然性の低い出来事。例えば、軍隊が仰々しいバリケードで待ち構えている、などという危機的状況。そうした警戒をする必要は、ありがたいことに今の東京にはない。警戒を解き、少し先を予想しながら、偶発性と戯れ、私たちは歩くことができる。そうして、さらに進んでゆくと、

見知った交差点に行き着くこともあるだろう。「このみちはここにつながるのか」と、街は創発する。脳内マップが書き換わるようにして、街は歩くたびに再び出現するのだ。こうした事態は、即興でドローイングを紡いでゆくことと極めて近い。一筆一筆の線が、次なる線を誘い、思わぬかたちに結び合わさってゆく。

□プロフィール



撮影：vvpfoto

1983 年、東京生まれ、在住。博士（美術）。2015 年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻油画（壁画）研究領域修了。東京大学特任研究員。絵画を学び、生命システムや科学哲学を理論的背景として、人間の制作行為（ポイエーシス）の時間性や創発性を探求している。代表作「織物絵画」に見られるように、自己組織的なプロセスやパターンを、絵画やドローイングを通して表現している。また近年は科学者とのコラボレーションによって、AI のパターン認識/生成や、人間の AI に対する感性的理解を探るなど、表現領域を拡張し続けている。

■第三弾作品

□期間：2026 年 3 月 2 日（月）～2026 年 6 月 30 日（火）

□アーティスト：副島しのぶ

□作品タイトル：「雨が降ったら話しましょう」

□アーティストコメント

雨が降ってきたようだ。木陰の下に駆け込んだ。

隣から知らない言葉が聞こえて来る。

雨が降ったら休みましょう。そこで共に休息をしましょう。

□プロフィール



立体アニメーションの技法を使った短編映画や映像作品を制作。アジアの民間伝承や民族文化のリサーチを通じて、影と光、死と生など対立し合うもの同士の均衡や狭間をテーマにしたナラティブな映像表現を試みる。第68回オーバーハウゼン国際短編映画祭エキュメニカル審査員スペシャルメンション賞や第22回メディア芸術祭審査員推薦作品など国内外で受賞、展示する。2021年、東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻修了。東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程映像メディア学在学中。

<東京ドームシティ アートプロジェクトについて>

東京ドームシティとアートの可能性の探求をテーマに、2022年5月から5年間を活動期間とし、東京ドーム、東京藝術大学、東京藝術大学芸術創造機構の3者が連携し、東京ドームシティという場所が持つ固有の魅力の調査研究、様々なお客様が様々な形でアートの楽しさや素晴らしさに触れられる機会の創出、若手アーティストの活動、活躍の場の創出を行います。

これらの活動により、アートを基盤としたこれまでにない企業価値向上の仕組み構築を図り、アート文化の発展や、アートを通じた社会課題の解決、社会的豊かさの創出を目指します。

これまでも、本学の卒業生である高橋臨太郎（2022年度）、遠藤麻衣（2023年度）、Hogalee（2024年度）、栗原良彰（2022～2024年度）が参加し、東京ドームシティを訪れるお客様にアートの楽しさや素晴らしさに触れられる機会の創出を図りました。

【このプレスリリースのお問合せ】

東京ドームシティ アートプロジェクト事務局（一般社団法人東京ビエンナーレ内）

東京都千代田区東神田1丁目13-3 商品部ビル5階

電話：03-5809-1653 メール：pr@tokyobiennale.jp